

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1.理念に基づく運営</b>				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『受容 傾聴 共感』をホームの理念としている。また『自分の身内が入りたいようなホーム』、家族等の前でできないことは、普段からしない』をスタッフ共通のモットー、約束事としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のスタッフミーティングや日々のケアを通じて全スタッフに語りかけ共有を図っている。また、各フロア入口に理念を掲げ、いつでも理念が目にはいるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームへ来所される方々に見やすいように理念を掲示している。また、ホーム内行事等や地域との交流を行う際には、ホームの理念等についても説明を行っている		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	笑顔での対応、挨拶を心がけており、散歩の際に挨拶をかわしたり、近所の方から野菜等を頂いたり、学校帰りの小学生が立ち寄ってくれることもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校や近所との交流については行っているが、老人会や自治会等への参加はあまり行っていない。		地域のコミュニティーセンターで行われる催し物に参加したり、自治会、老人会等へ積極的に参加出来るよう取り組みを行っていきたい。

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>小学生との交流時にホームの説明を行ったりしている。介護教室などや行事等の話し合いもしているが実現には至っていない。</p>		<p>地域の方々の拠り所となるような取り組みを地域の方々と一緒に考えていきたい。</p>
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価表をスタッフ全員で取り組み、日々のケアやホームの取り組みについての意見交換を行い、改善点等を把握することができた。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見や助言等を基に改善点をスタッフ間で共有し、改善すべき所は改善できるように意見交換を行っている。</p>		<p>運営推進会議の参加メンバーの充実を図り、地域の方々にホームや認知症について理解して頂けるよう取り組んでいきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームの運営や事例等について相談や、意見交換をしている。また、ホームの行事等に参加していただき、実際の取り組みを見ていただくこともある。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等へ参加し権利擁護や後見人制度についての知識を深めると共に、研修に参加できなかった職員も学べるよう資料等をいつでも閲覧できるようにしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止についての研修会への参加や、日々のケア、ミーティングを通じて虐待の内容や発生要因について勉強する機会を持つようになっている。</p>		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学や入所相談時に契約や重要事項等について説明をしている。不明な点や、不安等については電話や面談などいつでも対応できるよう掛けている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日々のケアの中で一人ひとりの利用者どゆっく話す時間を持ち、コミュニケーションを取る中で意見や不満、不安なこと等を話せる雰囲気作りを心掛けている。何かしらの意見等を把握した場合にはミーティング等を行い改善するよう取り組んでいる。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	健康状態や必要事項については電話連絡や面会時にお伝えしている。また、生活の様子等についてはホーム便りを毎月作成している。金銭管理については必要時の連絡と毎月の請求時に使用明細及び領収書を郵送している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	普段から面会時や電話連絡等によりコミュニケーションを取る機会を持つようしており、意見や要望、不安な点など気兼ねせず話して頂けるように対応している。また、意見箱を設置している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	意見等を言いやすい雰囲気作りを努めており、意見や提案等は十分に聞き反映出来るよう心掛けている。また、意見等を取り入れられない場合などは理由を明確にして伝えるようになっている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者や家族の希望に沿った対応ができるよう、また、ホームでの行事や外出等の際に必要な職員数が確保できるように勤務の調整を行っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	なるべく馴染みのスタッフでの関わりを継続しているが、少なからずスタッフの退職等がある為、退職の際には利用者や家族の方々へ説明している。		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>年齢や性別等は関係なく、グループホームを希望する動機や想いを大切にしている。また、仕事に対する希望や要望を話しやすい雰囲気作りを心掛けており、高いモチベーションを保って働ける環境作りに努めている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々のケアやミーティング等を通じてホームの理念やモットー、人権等について説明し理解を得られるよう指導している。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等も積極的に受講できるように勤務調整を行うなど、研修や講習を受講しやすいよう配慮している。また、看護師や介護福祉士等が中心となって指導を行ったり資格保有者は、適宜、資料の提供や助言を行うようしている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会に参加し、研修や交流会を通じて交流を図っている。また、系列ホームでの合同勉強会に参加し質の向上に努めている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフが気兼ねなく声を掛けやすい雰囲気作りや対応に努めている。また、介護職のストレスケアの研修に参加して知識を深め、スタッフのストレスが軽減できるよう配慮している</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>普段の勤務状況や勤務態度等を注意深く見極め、必要に応じて適切に評価している。また、個別での面談やアンケート等を実施し、仕事に対する意欲を持てるよう取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>利用相談時より利用者本人の思いや、希望を十分に聴き、また、利用者本人が話しやすいような雰囲気作りに努めている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の利用者に対する思いや不安、ホームに対する希望等を十分に把握できるよう話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に管理者のみではなく看護師や介護職員等も含めて相談内容や利用者の状態を確認し、必要なサービスがあれば関係機関と連絡を取るなど対応している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用に際しての不安や生活環境が変わる事により精神面が不安定になるようなことが考えられる場合には、事前に家族や関係者等と相談しながら体験利用(宿泊も含む)により徐々に馴染めるように対応している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>一方的にケアを提供するのではなく、生活の中で一緒に楽しんだり泣いたり笑ったり出来るような関わり関係を築けるよう努めている。</p>	

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	普段から心配事や相談事など気兼ねなく話していただけるような関係を構築できるように努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	利用者と家族の関係や入所以前の関わりなど、できる限り情報収集し、スタッフの支援だけでなく、家族や関係者の協力を得ながら、良い関係でホームでの生活を送れるよう必要な支援を行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	面会時だけでなく、手紙を書かれたり、電話をされる際の必要な支援を行うなど、馴染みの方々との関係を継続できるよう対応している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格や状態、普段の生活の様子などからスタッフ間で情報交換を行い、利用者が孤立したりせず、良い関係で生活していただけるよう配慮している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合など、スタッフが面会時に洗濯の対応を行ったり、必要に応じて面会時の状態等を連絡したりしている。また、利用を終了された利用者へ面会に行ったり、家族がホームへ来られたりと関係を継続している方もおられる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの利用者どゆっく話す時間を持つたり 普段のコミュニケーションの中で生活に対しての想いや希望を把握し、希望に添うことができるように努めている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>相談時に利用者本人、家族、関係者等より生活歴や以前のサービス利用状況、経過等をできる限り情報収集し把握するようにしている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>観察するだけでなく利用者とのコミュニケーションを通じて、ことある毎に介護記録に記録をし、ホームでの生活リズムや心身状態の把握に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃から利用者や家族の意見や希望を把握できるように心掛け、介護、看護職員含めてミーティングを行い、介護計画に反映するようにしている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画に定めた期間及び状態変化時等にスタッフ間でのミーティングを行い、ケア内容の変更や状態に応じたケアを提供できるようにしている。</p>	<p>スタッフのみでのミーティングだけではなく、本人、家族、関係者等も含めた話し合いを行い、計画を見直していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケア内容、利用者の変化等について介護記録に記入し、スタッフ全員が把握できるようにしている。また、必要に応じてミーティングを行い、ケア内容の変更を行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や食事その他、利用者や家族の希望、要望に合わせて必要な支援を行っている。		希望を主張できる方だけでなく、それができない方も日頃の様子やコミュニケーションの中から何を希望されているのかを把握し、すべての利用者へ平等に支援を行えるようにしていきたい。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで身体機能維持のためのケアピクスを取り入れたり、徘徊や非常災害時の捜索等の依頼を最寄りの交番に要請している。また、消防署員立ち会いのもと、避難訓練を実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用している方は現在いらっしゃらないが、本人や家族より希望がある際は、資料の提供や、問い合わせ等の支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加を依頼し、必要に応じて助言や支援を得ている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関や馴染みの医療機関がある場合は、利用者本人及び家族の意見を考慮している。また、かかりつけ医がいない方は利用者の心身の状態に応じて家族と連絡を取り合いながら適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師に指導や助言を頂いている。また、必要に応じて認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており、日中は健康管理や医療支援、主治医との連絡調整を行っている。また、夜間も連絡を取れる体制を取っている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフがお見舞いも兼ねて洗濯物を持ち帰ったり必要な物があれば持参するなど身の回りの支援を行っている。その際に、入院中の様子や病状など主治医や看護師、相談員と面談を行い情報収集を行っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族と十分にコミュニケーションを取り、意向の把握に努めている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族の方々が安心して生活を送れるように主治医、提携医等との連携を密に取っている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者や家族と十分に話し合い、情報交換を行いながら利用者自身が大切にされている物、身の回りの馴染みの物など落ち着いて生活ができるような物を可能な範囲で持参していただき、昔なじみの環境で生活を送ってもらえるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドやプライバシーを損なうことがないよう、ホームの理念やモットーを日々のケアやミーティング等、ことある毎にスタッフに話し徹底できるようにしている。また、入所時に個人情報の取り扱いについて説明を行い同意を得ており、それに沿って適切な取り扱いを行うように努めている。	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援している	利用者の状態や理解に応じてコミュニケーションを図り、必要に応じて筆談やジェスチャーを交えながら説明や理解を求め、なるべく利用者自身で自己決定ができるように努めている。	
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や外出、ホーム内での日課等もその日の気分や体調により参加したくない場合などは無理強いせず、一人ひとりのペースを尊重するよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物に同行してもらい好きな衣類や靴等を選んで頂いたり、髪を染めに美容室へ行かれる支援を行ったりしている。また、馴染みの化粧品を家族が購入して来られる方がいらっしゃるなど、家族の協力も得られている。	
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お箸を並べたり、台拭きをしていただいたり、できる方は引膳等の手伝いをしてくださる。また、できる限り利用者とスタッフがコミュニケーションを取りながら食事を摂るようにしている。	
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりのペースでたばこを吸われたり、買い物に行った際に好きな物を購入していただいたりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに応じた排泄パターンや習慣を把握し極力失敗がないように心掛けている。また、プライバシーやトイレの清潔面にも配慮し気持ちよく排泄ができるよう支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は無理強いせず、希望に応じて利用者のペースで入浴していただけるよう支援している。また洗身など可能な限り自力で行ってもらえるよう声掛けを行い、入浴している実感を持ってもらえるよう配慮している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間の設定はしておらず、休みたい時間に休んでいただけるよう支援している。また、居室の室温やベッド周辺の環境を整えたり、に中の軽運動等により気持ちよく安眠できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや裁縫、食器洗いなどできることは行ってほしい、自信を持っていただけるよう支援している。また、得意なハーモニカ演奏やカラオケ、近所への散歩、買い物など一人ひとりが好きなことができるよう支援している		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に事業所が行っているが、利用者によっては少額の金銭を所持されている方もおられ、他者とのトラブルや紛失がないようにスタッフが気掛けて支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買い物やドライブ、コンサート、散歩等に行けるよう支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	肌で季節を感じていただけるよう季節に応じた行事を計画したり、家族も参加しての食事会や催し物を開催している。また、家族と一緒に外出されることもある。		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を利用されたり手紙やはがきをやり取りできるように購入や代筆、投函などの支援を行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	コミュニケーションを十分に摂ることにより、スタッフとご家族の間に信頼関係を構築し、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。また、食事時の訪問の際は、一緒に食べて頂けるように配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加や勉強会を実施、また、日頃のケアの中でもスタッフに身体拘束について説明を行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関及びフロア入口は施錠していないが、人の出入りが確認できるように開閉時にドアセンサーが鳴るようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定時と必要に応じて所在、安否確認のための巡回を行っており、日中も事故等につながらないように安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	たばこを吸う方はライターや日の始末の確認、また、包丁等はケースに入れ手の届かない所に収納しており、包丁や調理ハサミなど刃物を扱われる際はスタッフがさりげなく見守りを行い、使用後の収納の確認を確実にし危険防止に努めている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	口頭やミーティング、必要時にスタッフへ説明、申し送りをしており、ヒヤリハット事例を記録し、事故防止につながるよう取り組んでいる。		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故等への対応についてはマニュアルがあるが、すべてのスタッフが定期的に訓練等はできていない		急変、事故対応等の勉強会や研修への参加を行い、全スタッフが対応できるように取り組んでいきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立ち合いの避難訓練を実施したことがあるが、それ以降はホーム内での勉強会等を行うに留まっている。		近隣の方々の協力を得ながら、火災や災害時の対応や訓練等を一緒に実施するなど取り組んでいきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	見学や相談時にできる限り利用者の情報収集を行い、状態に応じたリスクがあることを利用者、家族に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	バイタルサインのチェック及び日常生活状況、コミュニケーションの中でいつもと違う変化や状態を見過ごさないよう努めている。また、体調の変化や異変はすぐに看護師へ報告し対応できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局の薬剤師の協力を得て服薬の管理をしている。また、個人記録に薬の文献を綴じておりいつでもスタッフが確認できるようにしており、薬の変更等については口頭及び申し送りにて全スタッフが共有できるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や繊維の多い食材をこまめに食事に取り入れ、食事以外でもこまめに水分摂取して頂くよう配慮している。また、毎日の体操等の軽運動を行っている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	感染予防も兼ねて食前、食後の緑茶うがいや口腔ケアに努め、ブラッシングやガーゼ等を使用するなど利用者の状態に応じて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴や現病歴に応じて主治医と連絡を取りながら、指示のもと食事量や栄養バランスに配慮している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルを整備しており、基本的な事項(手洗い、うがいの励行、手指消毒の徹底、その他)については掲示したり、口頭にて説明するなどの対応をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や機材等の消毒液の使用、食器乾燥機の使用、また、冷蔵庫内の清掃や台所の環境整備、清潔に心掛けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に花や植物を植えたり、環境整備を行い、家族や来客者が気軽に入れるように配慮している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり、毎月作成するカレンダーに季節毎の催し物や植物等を取り入れている。また、環境整備を毎日行い、快適な空間で生活して頂けるよう配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースで新聞を読まれたり、ひなたぼっこをされたり、また、ソファやテーブル席で話をされたりと、思い思いに過ごされている。		

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれる物に制限は特にはないが、備え付けのダンス、ベット等を使用される方が多いが、自宅で使用されていた椅子やダンス、仏壇を持参されている方もおられる。		利用者や家族の希望、要望を把握し、馴染みの家具や調度品なども取り入れるようにしていきたい。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気がこもらないように適宜、換気を行っている。また、時期に応じた室温調整、湿度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置、障害物の除去、環境整備を徹底して事故防止に努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の理解や心身状況に応じて居室環境を整えたり慣れた居場所、物品の配置や環境を極力変更しないよう工夫し、環境の変化による混乱等を防ぐように配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	洗濯物干しや花壇、畑の手入れ、草むしりを手伝って頂いたり、ベランダで植物への水やりを日課にされる方、たばこを吸われる方がおられる。また、天気の良い日にはデッキでおやつを食べたりしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム いちょうの杜やすらぎ

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小学校のすぐ近くに位置しているため、利用者の方々と子供達との交流を頻繁に行っている。また、「受容・傾聴・共感」の理念のもと、利用者の方々がゆったりと安心して過ごすことができるようスタッフ一丸となってケアに取り組んでいる。